

アーツカウンシル東京 令和4(2022)年度 第2回 スタートアップ助成 対象事業決定のお知らせ

公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京は、東京の芸術文化の魅力を向上させ、世界に発信していく創造活動や、地域の文化や伝統芸能の振興、社会や都市の様々な課題に取り組む芸術活動を支援しています。

このたび、令和4(2022)年度 第2回 スタートアップ助成の対象事業を決定いたしました。

今回は、88件の申請があり、28件を採択いたしました(採択率31.8%)。助成予定総額19,683千円です。

■ 令和4(2022)年度 第2回 スタートアップ助成 申請・採択件数

	申請件数		採択件数	
	個人	団体	個人	団体
音楽	9	15	2	7
演劇	8	18	2	7
舞踊	3	4	3	1
美術・映像	11	13	3	1
伝統芸能	0	3	0	2
複合	0	4	0	0
合計	31	57	10	18

・対象期間 :2022年10月1日以降に開始し、2023年6月30日までに終了する事業

■ 令和4(2022)年度 第2回 スタートアップ助成 採択事業 一覧

申請88件、採択28件

(単位:千円)

活動分野	活動内容	実施場所	団体/個人	申請者名	事業名	助成金 交付決定額
音楽	都内での 芸術創造 活動	都内	団体	kasane	kasane vol.2: トーク&コンサート「Rétrospective - 過去との対話 -」	1,000
				「夢の浮橋」制作企画	音楽劇の制作・発表	1,000
				大熊音楽事務所Wind Roots 運営委員会	Wind Roots 第一回レギュラーコンサート	1,000
				呼ぶ女	「ふたりの女」-愛されたモーツァルト-	800
				Unplugged Jam Proud	Unplugged Jam Proud	645
				Neoclassical Collective	クチズサム	1,000
				Novanta Quattro	プッチーニの「地獄篇」ーダンテ『神曲』から 《ジャンニ・スキッキ》へー (仮)	1,000
	個人	中野渡拓実	emancipation Live (仮)	98		
国際的な 芸術交流	海外	個人	山本昌史	"CLAIR-OBSCUR"出演	244	

活動分野	活動内容	実施場所	団体／個人	申請者名	事業名	助成金 交付決定額
演劇	都内での 芸術創造 活動	都内	団体	片岡自動車工業	片岡自動車工業東京進出公演「レインボーショッピングセンターモール」「フレッシュマートストリートハリケーン」「セントラルポートアーケードサイクロン」(仮)	1,000
				演劇ユニット『あやとり』	演劇ユニット『あやとり』	1,000
				O企画	坂井水産フェスティバルvol.1「ストロング」「山の声」	1,000
				カリンカ	「家族(仮)」	993
				y/n	新作レクチャーパフォーマンス(仮)	1,000
				木村美月の企画	私の幽麗塔(仮)	980
				株式会社momocan	うらじぬのひとり芝居『ヘルベス(仮)』	1,000
			個人	渡邊綾人	きれいな糸(仮)	117
				西嶋咲紀	酔ひどれ船第2回公演(仮)	300
舞踊	都内での 芸術創造 活動	都内	団体	NeNalab	『食べるからだ』(仮) ワークインプロGRESS公演・本公演	996
			個人	misa	【舞踊日本昔話～生ト死ト性トシュルレアリスム～】(仮)	300
				加藤理愛	Unpublished Pieces(仮)	300
	国際的な 芸術交流	海外	個人	高瑞貴	高瑞貴振付作品「doldrums」エストニア招聘公演	200
美術・ 映像	都内での 芸術創造 活動	都内	団体	FLOATING ALPS合同会社	Changes program #01(仮)	910
			個人	権祥海	オブジェクト・シアター	300
				中谷優希	「シロクマの修復師」(仮)	300
				東山詩織	盾、ハンカチ(仮)	200
伝統 芸能	都内での 芸術創造 活動	都内	団体	J-TRAD Ensemble MAHORоба	第一回定期演奏会 始原～はじまりはじまる(仮)	1,000
				つくしの會	つくしの會(仮)	1,000

■ 令和4(2022)年度 第2回 スタートアップ助成 採択結果の概況

スタートアップ助成は令和3年度に新設された助成制度です。2年目に入り、今回は令和4年度2回目の公募でしたが、申請件数が88件と第1回の203件から大きく減少しました。全体の傾向としては、学生等個人の申請の減少が目立ったこと、申請書に不備があるものの減少が見られました。本助成では、都内での事業を初めて企画・主催する新進の個人・団体によるトライアルの事業、過去数回の実績を経て企画内容やキャリアの拡充を図るステップアップの事業、さらに、個人として実力を認められている芸術家が団体を結成し、新たな企画やプロデュースに着手する事業など、積極的なチャレンジを行う事業が採択となっています。また、事業の目指すべき目的が明確であり、それを実際にどのように具体化するのかが示されており、実現にあたっての予算やスケジュールが適切に計画されているものが採択となっています。令和4年度第1回では令和3年度に不採択となった事業をブラッシュアップして再申請し、採択に至ったものが複数ありました。今回も同様に1度不採択となったものが再申請して採択に至ったものがあります。スタートアップ助成は年4回の公募がありますので、対象期間を確認の上、事業の具体性や実現性を明確にして再申請することも可能です。具体的に計画の練られた意欲的な申請に期待します。

● 音楽分野

音楽分野での採択件数は9件、採択率は37.5%という結果になりました。団体に採択となったのは、小編成オーケストラによる公演からアコースティックと電子音響とのミクスト音楽に焦点をあてた事業、シンフォニックジャズ、ヒップホップシーンからの発信、ピアノと朗読による音楽劇、古典の再解釈によるオリジナルオペラの上演等となっており、その内容は多様です。個人申請ではドラマーやコントラバス奏者による企画が採択に至っており、いずれも申請者自身のキャリアの飛躍を予感させる、音楽的挑戦性の高い事業内容となっています。団体・個人に関わらず、申請書類作成時に重要なのは、余すことなく事業の特徴や魅力を伝えることです。文章の記述においては、抽象的で曖昧な表現を避け、具体的且つリアリティの感じられる言葉を用いながら、事業企画にいたった経緯、事業を実施する目的や意義、プログラミング等の必然性を説明してください。

● 演劇分野

26件中9件の採択となり、採択率は34.6%と過去最高となりました。20代から30代の申請が6割を占めたほか、俳優が申請者となった事業が全体の5割を占めたのも特徴です。演劇分野で経験を積んだ申請者が経験を活かし、新たに作・演出に取り組むなど、キャリアの拡充やステップアップを目指す企画や、内容が具体的かつ目的・取組が明確で、丁寧に言語化されている事業が採択に至りました。出演者や事業内容に未定要素が多く、具体性に欠ける事業は採択に至りませんでした。主催者と申請者が異なっている事業や予算書の誤り、団体の実績が認められないものなど、書類不備の申請が数件ありました。提出前に再度、公募ガイドラインと申請書類の確認をお願いします。申請要件を満たしていれば、以前不採択となった申請者でも再申請が可能です。内容をよく検討し、具体的に計画を練ったチャレンジングな事業の再挑戦に期待いたします。

● 舞踊分野

前回よりも申請数が大幅に減少しましたが、具体性と実現性が高く実施の意義も明確に言及された申請が複数あり、7件中4件が採択となりました。ジャンルとしてはコンテンポラリーダンスが最も多く、他にストリートダンスとフラメンコの企画がありました。これまで舞踊分野において申請の多かった、ジャンル横断的な企画や、他分野とのコラボレーションといった内容の申請は少なく、純粋に「踊ること」を目的とする企画が多かったことが特徴として挙げられます。また、要件をまったく満たさない申請や書類不備の多い申請は今回は見られず、水準の高い申請の割合が高くなっています。採択された申請に共通することは、申請者・申請団体の目的・課題・挑戦したいことと、それを実現するための事業計画がきちんと示されており、その申請者・申請団体にとって実施する必然性が認められることです。

● 美術・映像分野

これまでで最も少ない申請数となりましたが、これまで同様に20代から30代の申請が3分の2を占めました。美術分野では一定の修練や過去の美術史等への批判的な再解釈を行う取り組みが採択されました。映像分野では、過去大多数を占めていた俳優発信の申請が減り、美術作家、アニメーション作家、映画監督、脚本家、衣装デザイナーなど多岐にわたる事業者より申請がありました。採択された事業では、美術分野では、十分な過去の実績を持ちつつチャレンジ性が明確な企画や、今やりたいことだけではなく先行世代の芸術的達成を考察するなど先人の業績や歴史を学び、批判的にとらえ、革新・更新する意思と能力(ポテンシャル)を示した申請者による事業が採択されました。映像分野では、作品制作のみならず公開イベント内容についても具体的に計画され、事業者が目指している将来への

ステップアップへとつながることが見込める事業が採択される結果となりました。採択率は 16.7%と過去最高の採択率となっています。

● 伝統芸能分野

今回は 3 件中 2 件の団体が採択となりました。このうち 1 件は、当助成の伝統芸能分野で初めての学生団体です。技術の習得に年月を要する伝統芸能では、学生が主体となって主催公演を企画すること自体が難しい状況です。次世代を担う若手には、目まぐるしく変化する時代の流れに飲み込まれることなく自分を舵取りする力を養うことも、これからさき求められていくことです。企画の内容がオーソドックスな形になったとしても、自分自身にとっての挑戦となる場合もありますので、臆することなく積極的に申請してください。

● 複合分野

今回、複合分野での申請は 4 件と少なく、採択に至った団体はありませんでした。どの団体も分野の枠に捉われず、分野横断型や新たな表現方法を作り出そうとしている独自性のあるものでしたが、公募要件を満たさない申請もみられました。申請の際は公募ガイドラインの確認をお願いします。

■ 審査プロセス

以下の審査プロセスによって、採択を決定しています。

提出された申請書類をアーツカウンシル東京が精査し、事前調査や外部有識者の意見を踏まえて助成課長が評価案及び採択原案を取りまとめます。その後、アーツカウンシル東京機構長の審議を経て、公益財団法人東京都歴史文化財団が決定します。

令和 4(2022)年度 第 3 回 スタートアップ助成の申請受付期間は 2022 年 10 月 6 日(木)～10 月 20 日(木)消印有効です。申請受付開始に先立ち、9 月 15 日(木)より公募ガイドラインを公開します。詳細はアーツカウンシル東京のウェブサイトをご覧ください。
<https://www.artscouncil-tokyo.jp/>

＜本事業に関するお問い合わせ＞

公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京 企画部 助成課 担当：玉虫、井上
TEL：03-6256-8431 E-mail：startup@artscouncil-tokyo.jp

＜本リリースに関するお問い合わせ＞

公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京 広報担当：糸園、圓城寺
TEL：03-6256-8432 E-mail：press@artscouncil-tokyo.jp